

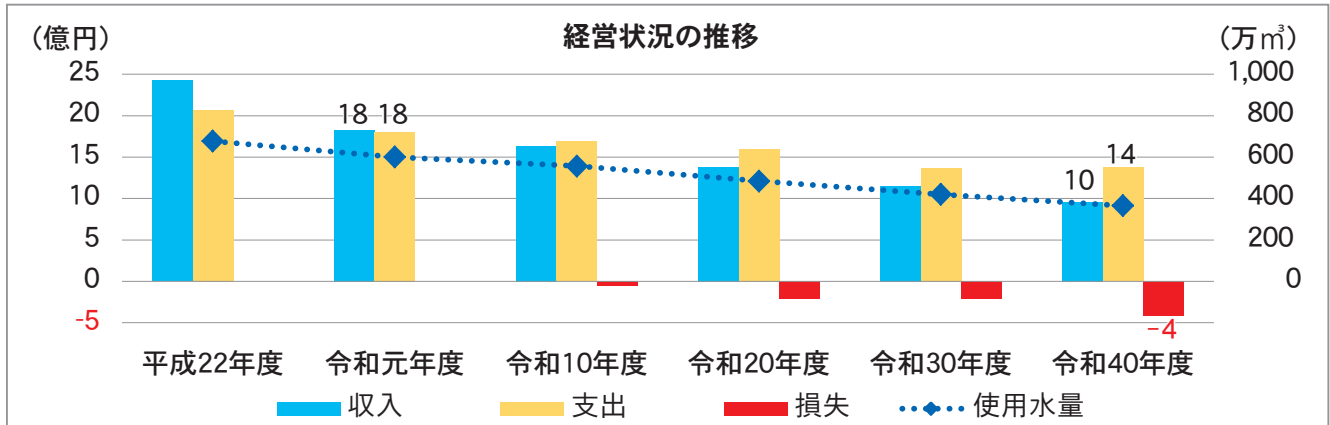
①人口減少と水道使用量の減

市の人口は、平成27年の約5.9万人に対して、令和47年は約2.7万人で、53.9%減少すると推計しています。(南魚沼市人口ビジョン2020)

人口減少は、使用水量(有収水量)の減少となって、水道事業にも影響を及ぼします。令和元年度の有収水量600万 m^3 に対して、令和40年度では365万 m^3 (39.2%減)になると試算しています。人口より減少率は緩やかですが、将来的に大きな

減少が見込まれています。これを事業収支で表すと、令和40年度には収入が約10億円(令和元年度は18億円)、支出は約14億円(令和元年度は18億円)、赤字が4億円の試算となります。

一方で、施設の維持管理費などの削減は、大きな改善ができない状況です。これ以上、事業の経営悪化は避けなければなりません。みなさんの負担を増やすことは難しいと考えています。



②高い水道料金 (一般用の料金を近隣市と比較)

市の水道料金は、基本料金と従量料金を組み合わせて計算しています。水道メーターの検針値で計算し、一般用水道料金は10 m^3 まで基本料金で2,460円です。一般家庭のメーター口径は、ほとんどが13mmか20mmで、市の水道加入件数の95%を占めています。そのうち約34%は、月の使用量は10 m^3 以下ですが、料金は一律2,460円を支払っていることとなります。

一方、近隣の市では、水道加入時に設置する水道メーターの口径によって、基本料金が異なる「口径別水道料金」を採用し、従量料金は安価になっています。しかしメーター口径50mmの場合で比較すると、基本料金に差があるため、南魚沼市の方が安価になる場合があります。

このような基本料金の矛盾を解消しつつ、一般家庭の料金負担を軽減するため、「口径別料金」の採用と、水道メーターの口径が大きい営業・事業用の使用者に対する料金を見直すことで、将来の料金収入の安定化を図ることができないか検討を始めています。

南魚沼市 水道料金 (用途別料金・税込)			
基本料金 (10 m^3 まで)	円	従量料金 1 m^3 ごとに	円
一般用 (すべてのメーター)	2,460	11~5,000 m^3	246
		5,001~10,000 m^3	214
		10,001 m^3 ~	134
20 m^3 使用料金	メーター 13mm (全メーター共通) $2,460 + (246 \times 10\text{m}^3) = 4,920$ 円		
	メーター 50mm (全メーター共通) $2,460 + (246 \times 10\text{m}^3) = 4,920$ 円		

魚沼市 水道料金 (口径別料金・税込)				
基本料金 (0 m^3)	円	従量料金 1 m^3 ごとに	円	
メーター	13mm	770	0~10 m^3	51.7
	20mm	957	11~20 m^3	128.7
	50mm	12,507	21~30 m^3	134.2
20 m^3 使用料金	メーター 13mm $770 + (51.7 \times 10\text{m}^3) + (128.7 \times 10\text{m}^3) = 2,574$ 円			
	メーター 50mm $12,507 + (51.7 \times 10\text{m}^3) + (128.7 \times 10\text{m}^3) = 14,311$ 円			

小千谷市 水道料金 (口径別料金・税込)				
基本料金 (0 m^3)	円	従量料金 1 m^3 ごとに	円	
メーター	13mm	1,595	0~10 m^3	55.0
	20mm	1,859	11 m^3 ~	172.7
	50mm	13,662		
20 m^3 使用料金	メーター 13mm $1,595 + (55 \times 10\text{m}^3) + (172.7 \times 10\text{m}^3) = 3,872$ 円			
	メーター 50mm $13,662 + (55 \times 10\text{m}^3) + (172.7 \times 10\text{m}^3) = 15,939$ 円			

※ 20 m^3 の使用は、大人2人と子ども1人の世帯を想定した水量の例です。